

歴史民俗資料館保存整備事業 - これまでに分かったこと -

外 観

柱や梁などの構造材はオリジナルの部材もよく残り、比較的状态も良いことが分かりました。



南立面図

屋根は、当初天然スレートで葺かれていました。



基礎のレンガの状態は、一部にクラックがあるものの全体としては健全な状態です。

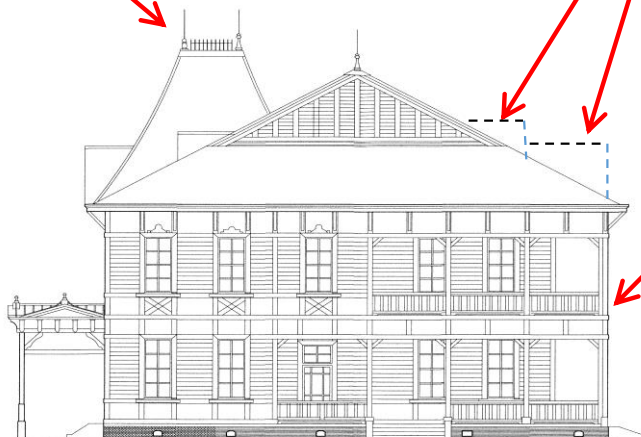
塔屋根には風向計がついていました



海に面した北側屋根にも千鳥破風がついていました。



ベランダの部材はほとんど新しいものに取り換えられており、手摺のデザインも少し変更されていました。



東立面図

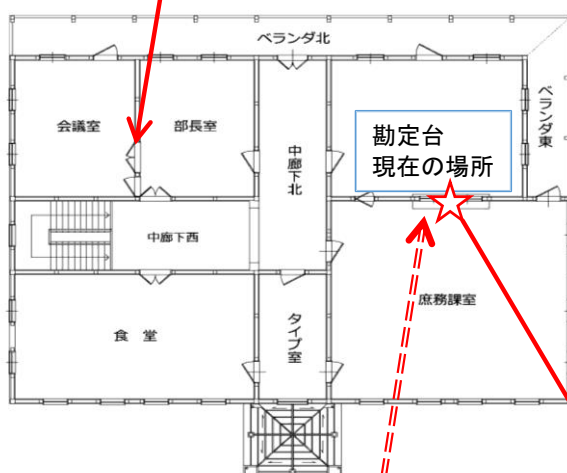
床下には、暖房装置と思われる土管が配置してありました。



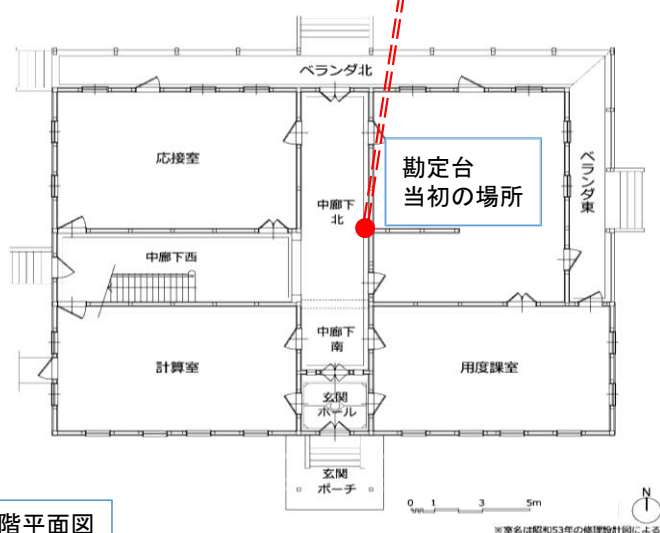
これまで建物の調査を進めてきましたが、現在までに建物の状態やオリジナルの状態と変更された部分も分かってきました。今後、さらなる調査を進めると同時に、専門家による委員会などで復原について検討していきます。

内 部

この壁は当初はありませんでした。



2階平面図



1階平面図



2階の天井は、現在と違って、装飾が施された漆喰の天井でした。
※この写真はイメージです。



勘定台は、当初は1階の廊下にありました。